

人生は面白くて楽しい!! どんなことに出逢うか、わくわくする。



仕事も趣味もきのこ

昭和36年創立の株式会社北研は、きのこ類に関する研究開発、種菌の製造販売、生産機材と栽培プラントの販売を手がける総合きのこ種菌メーカーとして名高い。原木栽培から菌床栽培への道を切り開いた画期的なシイタケ「北研600号」を発売し、サンマッシュンとしてブランド化。さらに、国産シイタケの安定生産に不可欠な優良種菌を安定供給する種菌工場を設立するなど、常に新しい事業を創出している。

その4代目社長が、仕事も趣味もきのこという川嶋健市氏。研究員として入社し、試行錯誤しながら菌床栽培を成功させ、その後、営業マンに転身して西日本への事業拡大に尽力。本社に戻り、工場設立を熱く説き実現。常に、エポックメイキングな場面で力を発揮してきた手腕がかわれて、営業本部長に抜擢され、2年後に現職に就く。

スーパーなどにも頻繁に足を運び、販売状態をチェック。「新鮮なシイタケはおいしいのに、鮮度への配慮があまりされていないのは残念。子どもにも、ぜひ新鮮なものを食べさせたい」と、地元の小中学校や地域の生涯学習の場などで、きのこの魅力を伝え続けている。

運命の出逢い

「きのここの衝撃的な出逢いは、大学4年の頃」と

振り返る。小さい頃から、山菜やきのこ狩りの名人だった父に連れられ、きのこには慣れ親しんでいた。「宝物探しみたいでわくわくしていた」と。図鑑で知識を深め、肌感覚で生育環境を熟知し、中学生になる頃には「内心、親父を超えた」と確信したそう。それでも、まだ天職とは気づいていなかった。

小学生で新聞配達、中学は牛乳配達、高校では週末宿直警備のアルバイトをこなした。「家が貧しくて、学費を自分で稼がないと高校進学ができなかった」と。卒業と同時に大手の家電メーカーに就職、TV事業部で修理を担当。労組での発言をきっかけに19歳で支部役員に選出され、合間に文芸部で詩を詠む。本好き、山好きの手柄が知れわたり、機関誌の編集長や新設のワンダーフォーゲル部の会長を命じられ、報酬も安定し、順風満帆に見えた。しかし、「高卒では、将来が見えてしまった。大学に行つて林業に携わりたい」と21歳で決断、退社。翌年には、独学で国立の山形大学に見事合格。山岳部に所属し、きのこは無縁の生活を送っていた。

再び巡りあったのは、雨で中止になった山登りの代りに参加したきのこ狩り。豊富な知識で誰よりもたくさん収穫したことが教授の目にとまり、マイタケ人工栽培の研究助手をすることに。「200本の中で、たった3つだけ生えてきた。その時、きのこをやりたい」と、電撃が走った。それが大学4年。

北研を選んだのは、面接時の初代社長の内堀忠利氏の一言。「君に採用通知は出さない。君が会社を気に入ってくれたら、採用通知を会社にくれ」と。心は決まった。26歳で入社し現在に至る。

始めるのに遅いことはなし

「素晴らしい出逢いのお陰。偶然が重なった」と、今ある自分を振り返るが、実は、探究心旺盛で、この道と決めたら邁進する本人の集中力とねばりがある

こそ。

本好きは、貧しいながらも『世界文学全集』を1冊ずつ買い与えてくれた母親のおかげ。その本を自分の血や肉にしたのは、何回も何回も読み込んだ本人の探究心。山好き、きのこ好きは父親のおかげ。天職にしたのは、本人の何事にも熱心に取り組み真摯な姿勢。素晴らしい人・もの事に出逢ったおかげと言わねば。短気な自分を直したく「今おこるのをやめよう。明日にしよう」と一旦自分の中で反芻する習慣が、思慮深く公正な人間性を磨いた。

社長業5年目。「最初は無我夢中だった」と語るように、就任してすぐ多額の借入れで種菌工場を新設したが、翌年に東日本大震災の被害と原発事故の風評被害をまともに受ける。迅速な判断と行動で、菌を救い、栽培者をサポート、被災地を支援、危機管理の構築を果たし、不屈の精神と行動力を実証。これからを問う「食育の推進や、機能性食品の研究開発と実用化、社員の幸せを創造する会社経営……」と夢は果てない。社長室に掲げてある「志正則業興（志正しければすなわち業興る）」の書に恥じないよう、常に行動が正しいかどうか自問する。

そして、「働きづめの母が60歳を過ぎてから、調理師免許、水墨画、書道、俳句等に取り組み、成果をあげているのを見ると、始めるのに遅いことはない。人生は面白くて楽しいもの。これからどんなことに出逢うかわくわくする」と、少年のように瞳を輝かせていたのが魅力的だった。「取材日：平成26年12月9日」

Profile

川嶋 健市
かわしま けんいち



昭和26年3月10日生まれ63歳。群馬県桐生市で4人兄弟の長男として生まれ、小学6年の時、親の転勤にともない足利市に転居。栃木県立足利工業高等学校電気科卒業後、家電製造会社に就職。19歳で労組の支部役員に抜擢され、その傍ら機関誌を発刊したり、ワンダーフォーゲル部の会長を務めたりした。3年2ヵ月後、大学進学を目指し退社。山形大学農学部森林科学コース卒。昭和52年株式会社北研入社。平成22年7月から現職。きのこアドバイザー。二女の父。趣味は、骨董品収集やカメラなど幅広い。